

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2013年4月29日発行 第61号

バンコク在住の西川会長から

4月はタイ正月（タイ語で「ソクラーン」）です。カレンダー上の休みは13日から15日ですが、官公庁は12日と17日を休日とするとした発表が早々となされ、それに追従して多くの企業が12日から17日を休みとしたようです。4月は6日にも祝日があり、有給休暇を取って、さらに長期の休暇を取る人も多く、この時期がタイにおける旅行のハイシーズンと言っても過言ではないと思います。

私が勤務する学校でも長期に休めるのは、年末年始とこの時期に限られますので、皆、帰省や旅行の計画を立てるのに余念がありません。3月になると、職場でもソクラーンをどこでどう過ごすのが毎年話題に上ります。

そんな中、一人のタイ人女性スタッフが日本への一人旅を計画していると聞き、私はちょっとした衝撃を受けました。日本へ行くタイ人は今ではそう珍しいことではなくなりました。ただ、私の周りでは、個人で日本まで旅行に行くのは、たいていそこそこお金のある人や留学経験者ばかりでした。そうでない人はツアーで行くのが一般的、いやツアーでしかなかなか行けないものでした。

思えば、私がタイに来たころは、個人が日本のビザを取ることも非常に困難なことだと言われていました。身元保証人や経費の支弁書が必要でそれが大きな障壁になっていました。そのうちツアーでなら、割と簡単にビザが取れるようになり、そして定期収入のある身元のしっかりしている人や学生なら日本のビザを取ることはそんなに難しいことではなくなりました。それでも、もともとの物価の差や、長く続いた円高などの影響で、日本へ行くことはお金のかかること、金銭的に余裕のある人にしか実現できないこと、と考える人が少なくなかったと思います。

今回、日本行きを計画した彼女は、実は一度出張で日本に行ったことはあったのですが、いわゆる富裕層ではなく、ごく普通の女の子です。昨今話題のLCC（格安航空会社）で激安のチケットを見つけ、ネットを駆使して旅程を組み、一人でビザを申請したそうです。そして、日本では退職し帰国した教員との再会を果たし、少し肌寒さの残る日本の春を満喫して帰ってきました。

彼女の日本行きが実現したのは、タイ人の所得水準が上がったこと、日本のビザ発給要件が昔に比べ緩和されたこと、格安航空会社が台頭して以前より安価に航空券が入手できるようになったことなど、様々な要因が重なったことなのですが、昔のことを思うと隔世の感があり、なんとも感慨深いものでした。

何もかもがお膳立てされた出張のときとは違い、自分の力で実現した日本旅行を終え、より自信が増し、より日本のことが好きになって帰ってきたような気がします。

折りしも、日本ではタイ人、マレーシア人、インドネシア人観光客を対象に、ビザの免除を検討しているという報道がなされました。背景には減少している中国からの観光客を穴埋めするために、東南アジアから観光客を受け入れて景気を刺激しようという経済的な側面もあるようですが、彼女のような人が一人でも二人でも増えるのなら、こうしたビザの免除策をぜひ歓迎したいと思います。

西川弘達

報告 1

～海ツアー～

3月17日から22日まで、チェンマイにあるエイズ孤児寮「希望の家」・山岳部少数民族の学生寮「カサロンの家」、FREE 財団、キャンヘルプタイランドの合同で、寮の子どもたちを海へ連れていくツアーを行いました。今回で3回目のツアーですが、海を見たことのない山岳部出身の子どもたちを、夏休みを利用して海水浴に連れて行ってあげようという企画で、子ども達・寮スタッフ・タイ人大学生・日本人参加者の総勢80名での大ツアーとなりました。

1日目 (3/17)	日本からの参加者は夕方4時にバンコク国際空港に集合し、路線バスに乗ってパタヤまで移動。パタヤからチャーターワゴンでサタヒップナンガムビーチへ。22時現地着
2日目 (3/18)	朝、チェンマイから子ども達が到着(12時間のバス移動)。初めて海をみて感激の様子。食事とミーティングの後移動。軍艦の見学(日本人は乗船不可)。お昼に新しい宿泊施設へ移動し昼食を食べ、午後は海亀の保護施設を見学
3日目 (3/19)	全員で島観光へ出発。車で10分ほど移動した港から、海軍の小型船で島へ。島ではシュノーケルやカヌー、サイクリングなどのアクティビティーがあり、夕方まで過ごす
4日目 (3/20)	丸一日、浜辺でゲームをしたり、泳いだりしながらのんびり過ごす。朝食後、子どもたちが出身民族の衣裳を着て、各民族の紹介をした。
5日目 (3/21)	午前10時頃、子どもたちがバスでチェンマイへ出発するのを見送り、その後、日本人参加者はチャーターワゴンでパタヤへ向けビーチを出発。パタヤのバス停でお昼を食べ、路線バスでバンコク国際空港へ移動。バンコク市内散策後、夜中の飛行機へチェックイン。
6日目 (3/22)	上海経由の深夜の飛行機で帰国。名古屋には正午に到着、解散

○参加者レポート

チェンマイ「希望の家・カサロンの家」海ツアーに参加して

報告・寺島優美

H25. 3月17～22日にチェンマイの「希望の家・カサロンの家」の子供達を海に連れて行くツアーに参加させて頂きました。日本はまだ肌寒い日が続いていましたが、タイは夏季に差し掛かっていたため、バンコクのスワンナプーム空港に到着するとモアアと熱い空気に包まれました。私は今回でタイへの渡航が2回目でしたが、初めて行ったのが10年以上前の高校生の時でしたので、少し歩くとすぐ迷ってしまうとでも大きな新空港にこの10年でのタイの発展を感じました。

今回はタイの北部に在住している山岳部少数民族の子供達を海に連れていくため、海を初めて見る子も多いということで、子供が好きな私は沢山一緒に遊ぶぞー、と張り切っていました。バスなどに2～3時間揺られ、チョンブリー県のナンローンビーチに到着しました。子供達は施設のあるタイの北部のチェンマイから海に面したパタヤまで一晩かけて大型バスで移動して来るため、到着した際は先行組で到着していた比較的年齢の大きな子供達が出迎えてくれました。子供達は着くや否や私達の荷物を率先して持って、部屋まで運んでくれました。翌朝にわたりの声が鳴る早朝に後攻組の比較的小さな子どもたちが到着し、一気ににぎやかになりました。今回は総勢50名程度と大所帯。大勢で行動するのはどこの国の子供でも大変ですが、希望の家・カサロンの家の子供達は何を言われる訳でもないのに何でも率先して手伝おうとしてくれます。食後の皿洗いなども当番制で決まっており、当たり前のようにこなしていました。所々で幼いころから集団生活で学んだルールや気遣いが垣間見え、素晴らしいと思いました。

私は「役に立ちたい、一緒に楽しみたい」と、張り切って来てみたものの、タイ語に関する知識が全くないため、「サワディカーupp(こんにちは)」と「コップンカーupp(ありがとう)」しか言えず、当然何を話しているのかも全くわかりませんでした。子供たちが話しかけてくれても大体の内容すら分からないので、はじめはどう接していいか分かりませんでした。外国人で、大人で、言葉が全く伝わらない私は、彼らにどう映っているのだろう、あまり急に近づくのは怖いのではないのかな、と思い少し距離を置きました。はじめは子供達も遠目で眺めてみたり、と初めての訪問者の私を色々観察していましたが、希望の家・カサロンの家は日本人訪問者も多い為、日本人慣れしている面もあったため、こちらからジェスチャーを交えて近寄っていくと快く対応してくれました。そして少し時間が経つと「クンチューアライカー(名前は何ですか?)」などと名前を聞いてきてくれるようになり、小さな子供は手を握ったり、すり寄って来てくれたりしました。幸いなことに今回ツアーで一緒になった日本人の同年代の方や日本からタイのチェンマイ大学に留学してい



る大学生の方々と一緒に参加させて頂くことが出来たため、タイ語を教えてもらいながら、時に通訳をしてもらいながら過ごすことができ、コミュニケーションの手助けをして頂くことが出来ました。私がタイ語が話せないことが子供達の中で分かってくると英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしてくれる子も出てきました。「I hope play with you.」「Can you swim?」などと言って遊びに誘ってくれました。

気が付いたら海に連れてって行ってもらっているのは、私でした。「子供たちと遊んであげる、人の役に立ちたい」とどこか「与える側」のような気持ちで参加していたんだ、と気付いた時、とても恥ずかしいような気持ちと同時に、色々なことが有り難い、と感じました。私は「与える側」ではなく「気が付けば与えられている側」でした。日本で持ち歩いている、年齢、職業、経済力などはなんら関係なく、一人の人間として、今回の様々な出逢いに、子供たちの優しさに、気遣いに、このようなことが体験できる恵まれた環境に、感謝の気持ちで一杯になりました。沢山の方々の支援で今回のツアーに参加させて頂き、子供たちの明るさや優しさに触れ合うことが出来ました。言葉の面では3歳児以下の、初めて来て二度と来ないかも分からない私と、手を繋いでくれて、「テラー、テラー」と名前を呼んでくれて、遊びに誘ってくれて、ありがとう。私は、彼らに与えてもらった心の豊かさを、何かの形で還元できないか、と思い今年度からキャンヘルプタイランドの運営委員会に携わらせて頂くことにしました。

最後になりましたが、今回ツアーを共に過ごしてくれた子供達は、初めての海を前に怖がることなく無邪気に遊ぶ明るさと、初めて訪れた日本人に関わろうとしてくれる優しさをみせてくれました。しかし、彼らは、エイズ孤児であったり、親が麻薬をやっていたり、親が何らかの理由で働くことが出来ないなど、経済・環境的に劣悪なために、幼いころから親元から離れ、言葉もよくわからない場所で集団生活をしながら教育を受けないといけな何らかの理由を抱えています。それはタイや山岳民族の歴史・習慣に基づく社会的背景や、根強い山岳民族に対する差別意識などが関係しています。また、タイでは近年の経済の発展により、中間層から上の層が裕福になっていくにつれて下層は取り残される、という二極化が進んでいるそうです。タイに関する知識に乏しい私はこれから学んでいく必要があるな、と思いました。子供たちの強さや優しさを尊敬し、これから少しずつでも、関わり続けていけたら、彼ら一人一人の人生が少しでも明るい方向に向かえば、と思います。



2013年3月海ツアー会計報告

今回のツアーの日本人参加者の参加費は一人30,000円（バンコクまでの航空券は別）でしたが、ツアー全体では100万円弱の予算が必要でした。その予算を希望の家を運営するラフー財団と北海道在住の日本人の方とキャンヘルプタイランドで出し合うことでこの海ツアーを実施出来ました。

その中で、キャンヘルプタイランド関係（日本人参加者と奨学生）分の経費を会計報告いたします。

収入の部

	項目	金額(パーツ)	備考
1	参加費	25,920	日本人ツアー参加費
2	参加費	1,000	タイ大学生参加費(オイ)
3	社会貢献活動費	32,512	すみれ基金奨学生参加費
4	キャン基金	100,000	チェンマイの子ども達ツアー経費
	合計	159,432	

支出の部

	項目	金額(パーツ)	備考
1	文具	375	オリエンテーション用 ペン、用紙など
2	交通費	13,927	高速バス、ワゴン、高速代、ガソリン代
3	食費	18,875	全日程
4	入場料	1,890	島観光、ビーチ入場料
5	薬	405	ケガ治療薬等
6	お菓子	1,560	子ども達へのプレゼント
7	宿泊費	11,200	日本人参加者宿泊費(全日程)
8	宿泊費	8,200	タイ人大学生宿泊費(全日程)
9	通訳費	3,000	△さん通訳費3日分
10	寄付金	100,000	寮の子ども達のツアー代へ寄付(基金から)
	合計	159,432	

また、今回のツアーには、キャンヘルプタイランドから奨学金を支援されている学生も多数参加しました。奨学生の社会貢献活動の意味合いもあり、このツアーに参加した学生はツアー中に小さな子ども達の面倒を見たり、レクリエーションを企画したりし、とても有意義な体験を出来た事と思います。



すみれ基金奨学生のパティー（左側）→

今回の海ツアーに参加したキャンヘルプタイランド奨学生

No.	Student-ID	名 前	性別	年齢	県
1	BR-S-120	Orasa Kaeoson (トングアウ)	女	16	ブリラム
2	KS-S-117	Warissara Wongworachet (フェブ)	女	17	カラシン
3	KS-S-118	Orn-uma Saengkot (ジャム)	女	16	カラシン
4	PJ-S-067	Suparat Saprawat (Y イン)	女	18	サケーオ
5	RT-S-087	Jarinyarat Nimad (ワオ)	女	18	ロイエット
6	すみれ基金	Janetramat Pimnoi (パティー)	女	21	ナコーンパノム
7	友人参加	Kanitta Chuaprasong (オイ)	女	21	ナコーンパノム
8	NP-S-050	Wattana Saengsuwan (ター)	男	16	ナコーンパノム
9	すみれ基金	Adichat Donpunmuang (ヌム)	男	19	マハサラカーム

報告2

～2012 年度総会～

報告者 藤井 佳奈

4月7日（日曜日）13時より、キャン名古屋事務所のNPO ステーション共有スペースを使って、キャンヘルプタイランド、2012年度総会が開催されました。



当日は西川会長の出席を含めて、総勢10人の会員と、監査の田中興浩様をお迎えして、定刻より総会が開催されました。当日までに総会欠席通知で、議案に対する委任状が30通届いていることが報告されました。いつもの運営

委員会より多くの方が集まり、久しぶりに顔を合わせるといふ方々も居て、会は楽しい雰囲気の中始まりました。会議は午後1時より始まり、議長に選ばれた大矢理事の進行で、議案書に沿って一年を振り返りながら総会を進めました。

最初に各プログラムの活動報告がされました。キャンの活動の中で、建設プログラム（ワークキャンプ）は大きな柱ですが、これに関して大矢理事から報告がありました。2012年度、最も大きな議題になって来た建設プログラムでしたが、報告できたのは今年度、名古屋千種ロータリーの建設プログラム申請は断念する。ということでした。進めてきた計画は中断することになりました。これは仕方の無いことですが、とても残念な結果でもありました。昨年6月に、松本運営委員と「FREE」のむ。さん、により候補地への視察、その評価をもとに、候補地を絞り、数回の議論の末にキャンとして推薦する学校を決めました。会議の中で何か重要な決定をするときには、「キャンヘルプタイランドが大切にしているものは何か。支援して下さる方々に対して、キャンが果たすべき責任とは何か。支援者（タイの学校と学生）からキャンに期待されるものは？」といったことに対して意見が交わされました。キャンが行う支援の意義を再認識した上で、決めた候補地でした。

このような経緯があり、話し合いの結果、キャンの単独事業として、再度計画を練り直し、建設プロ

グラムは実行しようということになりました。資金をどうするかという問題があり、候補地選定の議論は振り出しに戻らざるを得ませんでした。運営委員の中に「必要に恵いたい」という強い思いがあり、改めて同一の候補地が支援実施地として選定しました。このことは、2013年度の活動計画として発表されました。2012年度、1年かけて準備をしてきました「建設プログラム」が、足踏みしながらではありますが、気持ちも新たに、こうして次年度計画となりました。これとは別に、ワークキャンプを行う構想もあり、これからが楽しみです。

キャンの活動のもう1本の柱として、奨学金プログラムがあります。奨学金授与式に参加した松本運営委員（今年度より理事）が報告しました。4～5年前には40名くらいいた新規の奨学生ですが、2013年度は19名と減らし、また支援人数全体としては、昨年対比で40名余り減らざるを得ませんでした。また、タイの経済成長により物価が上がる中、キャンの出す奨学金の額はそのままなので、決して十分とは言えませんし、物価対比にすれば以前より少なくなっていると言えます。しかし経済成長に伴って経済格差も大きくなりつつあり、最貧層に取り残されてしまう人たちが出て来る状況において、弱者への支援に特化したキャンの援助の意義は、むしろ大きくなっているのではないかというのが、タイで生活し、また2年間奨学金授与を担当して、実感しているということも話されました。また、翻訳会など奨学金プログラムの国内の部門を担当した大矢理事から、翻訳会に参加して下さる方、在宅ボランティアの方など多くの方のご協力を頂いた結果、翻訳が無事に終了したことが報告されました。13年度もご助力を頂ければ幸いです。

奨学金プログラムに関して、2013年度の活動計画としては支援予定人数170名（内新規20～25名程度）を予定しています。授与式は6月末～7月、私、藤井が出席させて頂くことになりました。奨学生達に会うのが今から楽しみです。授与終了後には、昨年度と同様に、翻訳会を開催する予定です。タイ人の皆様の参加に対して、日本人の参加が少なかった昨年の現状があり、会員の皆様にもぜひ翻訳会へ足を運んで頂ければと思っております。

この外、「すみれ基金」、「ランチプログラム」、「図書支援プログラム」の活動報告と13年度活動計画をそれぞれ担当者が発表しました。図書支援プログラムでは2011年度に計画していた「ちょうちゃんの光」の絵本が完成したことが大矢理事より報告されました。「ちょうちゃんの光」は引っ張ると絵が変わる仕掛け絵本で、手が込んでおり、色も鮮やかで、なかなかの出来映えです。絵本をご希望の会員の方には1冊1,500円（送料込み）でお送りいたしますので、ご連絡ください。今まで、タイから作品を募集し、参加してきた岐阜県可児市の絵本コンテストは昨年2012年で終了しましたが、年々絵本の質も向上しており、学生に参加の意欲も見られるため、これからも続けて参加したいという現地の声があり、現在可児市に代わる地方自治体の絵本コンテストを探しています。候補としては岡崎市、春日井市がありますが、まだはっきりしたことは決まっていません。今後、大矢理事から担当を引き継いだ松本理事が、自治体を訪問などして調整していくことになっています。

活動報告と活動計画の外に、今回の総会では大切なお知らせが二つありました。

3月に参加者を募集をして行った、カサロンの家の子供達を海に連れて行くツアーに参加された寺島優美さんがキャンの新しく運営委員になって下さいました。人員不足でなかなか思うように活動できていない現状なのですが、新しいメンバーを迎え、今年度はイベントにも参加しようという積極的な姿勢であります。

もう一つは、これまで1998年よ15年間運営委員として活動に参加し、2000年からの12年間は、理事としてもキャンに尽力くださった、伊藤剛史さんが今回の総会をもって、キャンの理事並びに運営委員を退任されることが発表されました。伊藤さんご本人は急用の為、総会には出席できず、代

わりに大矢理事よりこの発表がありました。長年キャンの中心になって活躍くださった方だけに、これからの活動が不安だと言う声もありました。私自信、初めてキャンのワークキャンプに参加させていただいた時のきっかけは、説明会でお会いした、伊藤さんの人柄が大きかったように記憶しています。伊藤さんの人柄そのものがキャンの顔になってくださっていた部分もあるよう思えます。伊藤理事の退任に伴い、先述しましたが、松本運営委員が新理事として推薦され、会長が任命しました。

2012年度会報の訂正

2013年度予算訂正

	2012年度予算	2012年度実績	2013年度予算
換算レート	2.70	2.80	2.80
国内収入 (円)			
前年度繰越金	12,994,206	12,994,206	14,701,687
奨学金プログラム	1,450,000	1,280,000	1,300,000
山岳部少数民族支援プログラム	50,000	90,000	50,000
給食プログラム	100,000	135,000	100,000
建設プログラム	50,000	40,000	50,000
図書支援プログラム	20,000	7,000	10,000
基金・指定なし寄付	500,000	428,000	500,000
その他(利息収入等)	3,000	6,880	3,000
ワークキャンプ・ツアー	0	0	500,000
会費	200,000	141,000	200,000
計	15,367,206	15,122,086	17,414,687
国内支出 (円)			
タイへの送金	0	0	5,000,000
会員事業	0	0	0
その他(経費等)	500,000	420,399	600,000
次年度繰越金	14,867,206	14,701,687	11,814,687
計	15,367,206	15,122,086	17,414,687
タイ収入 (Baht)			
前年度繰越金	6,431,666.82	6,431,666.82	5,170,479.55
日本からの送金	0.00	0.00	1,785,714.29
奨学金プログラム	0.00	0.00	0.00
給食プログラム	0.00	0.00	0.00
建設プログラム	0.00	0.00	0.00
図書支援プログラム	0.00	0.00	0.00
ワークキャンプ	0.00	0.00	0.00
その他(利息収入等)	50,000.00	81,082.04	80,000.00
会費	1,000.00	1,000.00	1,000.00
計	6,482,666.82	6,513,748.86	7,037,193.84
タイ支出 (Baht)			
奨学金プログラム(Free)	600,000.00	515,375.00	450,000.00
すみれ基金(Free)	326,000.00	218,315.00	378,000.00
山岳部少数民族支援プログラム(Free)	120,000.00	120,000.00	120,000.00
給食プログラム(Free)	80,000.00	80,000.00	40,000.00
建設プログラム(Free)	100,000.00	21,217.00	1,500,000.00
図書支援プログラム(Free)	100,000.00	100,000.00	100,000.00
ワークキャンプ他ツアー	18,000.00	0.00	100,000.00
20周年記念事業	0.00	0.00	0.00
経費他支出	50,000.00	12,362.31	50,000.00
Free委託費	276,000.00	276,000.00	276,000.00
補正予算	0.00	0.00	0.00
次年度繰越金	4,812,666.82	5,170,479.55	4,023,193.84
計	6,482,666.82	6,513,748.86	7,037,193.84

2013 年度運営体制訂正

会 長	西川 弘達	副 会 長	新井 康義
会長代行	新井 康義、 大矢 治夫	監 事	田中 與浩、 伊藤 康子
理 事	西川 弘達、 新井 康義、 大矢 まゆみ、 坂 茂樹、 大矢 治夫 松本 康裕（新任） （※伊藤 剛史理事は退任されました。）		
運営委員	西川 弘達、 新井 康義、 大矢 まゆみ、 坂 茂樹、 大矢 治夫 松本 康裕、 伊藤 理絵、 藤井 佳奈、 寺島 優美		

報告 3

～2013 年度すみれ基金奨学金～

2013 年度すみれ基金寮学生の候補者をご紹介します。

No	①名前（ニックネーム） ②性別 ③希望進路 ④出身 ⑤学校 ⑥両親 ⑦家族収入 ⑧進路への思い ⑨成績 ⑩頑張り度 ⑪その他性格等	写真
1	①Apassara Kaewkeson アパッサラー・ケーオケソーン（ベース） ②女 ③短大 観光ビジネス ④北部チェンマイ県メーリム郡 ⑤Chiangmai Vocational College ⑥両親死亡 ⑦（祖母）ほとんどなし ⑧とても高い ⑨優秀 ⑩普通 ⑪普通はとても明るいが、過去を振り返ると涙もろい。自分に合う専門を選んで勉強、実習ともいい成績。チェンマイなので訪問しやすい。	
4	①Siriwan Buachot スイリワン・ブアチョート（プリアウ） ②女 ③短大 コンピュータ・ビジネス ④北部スコタイ県ムアンスコタイ郡 ⑤Sukothai Vocational College ⑥両親から連絡なし ⑦（叔母夫婦）普通 ⑧高い ⑨優秀 ⑩普通 ⑪子供っぽくて明るい。小母夫婦がいままでよく面倒みてくれた。携帯電話を持たせられなくても困らない珍しい子。	
19	①Rapeeporn Praechompoo ラピーポーン・プレーチョンプー（パム） ②女 ③大学 タイ語 ④北部メーホンソーン県メーサリアン郡 ⑤Rajabhat Lampang University ⑥両親健在 ⑦（両親）低収入 ⑧低い ⑨優秀 ⑩とても高い ⑪カレン族。両親いるが、父親が高齢（81）。両親二人ともタイ語があまりできない。家族の現金収入がほとんどなく、労働して米をもらってくるのが普通。本人はタイ語がとてもうまい。	
22	①Watcharawut Kittipairoa ワッチャラウト・キッティパイロ（トップ） ②男 ③短大 電気修理 ④北部パヤオ県チェイアンカム郡 ⑤Payao Technical College ⑥父親死亡 ⑦（母、再婚相手）低収入 ⑧とても高い ⑨普通 ⑩高い ⑪ヤオ族。母親が2回再婚した。ややこしい事情で今住んでいる家も人に取り残られてしまう可能性あり。将来についてしっかり現実的に考える子。	
37	①Waipoj Siriwong ワイポット・スィリウオン（ワイポット） ②男 ③大学 家畜管理 ④北部メーホンソーン県クンユアム郡 ⑤Rajamankla Eastern University (Bangpra) ⑥父親死亡 ⑦（母、新婚相手）低収入 ⑧高い ⑨優秀 ⑩普通 ⑪継続の学生。次世代農家協会の地域会長。それでも成績優秀。そのため先生に進学を勧められた。将来素晴らしい人材になりそうな感じ。	
40	①Juramas Kamjun ジュタマート・カンジュン（ピム） ②女 ③大学 法学 ④北部パヤオ県プーサーン郡 ⑤Ramkamhaeng University ⑥両親死亡 ⑦（お婆）ほとんどなし ⑧とても低い ⑨普通 ⑩とても高い ⑪現在仕事をしながら大学に通っている。頑張ったことにはとても感動的だが、どんな仕事をしたいのか分からない。夢は公務員になること。	

報告4

～建設プログラム～

昨年から準備を進めていたメーホンソン県バンメーガオ学校の建設プログラムがようやく動き出しました。キャンヘルプタイランドから 100 万パーツの支援を行い、学校の校舎建設を行います。この学校はマラリア発生の危険性がある山奥にあるため、皆さんに建設作業を手伝っていただくようなワークキャンプは実施できませんが、現地からの報告が届き次第、ネットワーク通信で途中経過をお知らせしていきます。



運営委員会

(2013年2月～2013年4月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	2月	事務所	海ツアー計画
運営委員会	3月	事務所	総会準備
総会	4月	事務所	2012年度総会
運営委員会	4月	メール	2013年度奨学金、バンメーガオ学校建設

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

2年ぶりにタイへ行ってきました。今回の訪タイで一番驚いたことは、バンコクの景気の良さでした。2年前の暴動直後は観光客も減り、ショッピングセンターもそんなに混んでいる感じがしませんでした。今回はバンコクの街全体が活気づいているというか、ガヤガヤしているというか、平日の昼過ぎなのにどこも人で溢れかえり、好景気を肌で感じました。日本企業の進出ラッシュもあり、タイ(バンコク周辺)はもう先進国の仲間入りかな。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.61>

発行 キャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2013年4月29日
 住所 〒450-0003
 名古屋市中央区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net